

けやき



No. 635
2025. 5. 21

京大職組
文学部支部

新組合員 自己紹介

◆天野恭子◆

ています。

私は留学から帰国して出身の大阪大学で1年半助手をした後、4人の子育てのために10年間を無職、無所属の状態在宅研究をして過ごしました。この状態でも多くの人に助けてもらって研究を続けることができました。組合は大学という組織のものですが、研究という枠組みで考えると、組織に雇用されて

インド古典学専修の天野恭子です。ヴェーダと呼ばれる古代インドの宗教文献のうち、散文の中で最も古い、紀元前9世紀頃に成立したマイトラーヤニー・サンヒターと呼ばれる文献を研究しています。最初は言語学的な興味からこの文献を選び、ドイツ、フライブルク大学の印欧語比較言語学で博士論文を出しました。その後ずっとこの文献ひと筋で読み続け、情報学的手法を用いた分析手法の開発もしています。ある時から、文献が伝えているのは私と同じ生身の人間の営みであるという感覚が強くなってきて、最近は文献が成立した社会的背景と人々の生活が関心の中心になっ



◆岡崎龍◆

2024年4月から西洋哲学史(近世)専修でお世話になっております、非常勤講師の岡崎龍と申します。2021年にベルリンで博士号を取得したのち、ウィーンとイエナでポストドク生活を送り2024年度末に帰国しました。その後京都大学で非常勤講師としての職を与えていただき、京都で研究を継続しながら週に一度ドイツ語の非常勤で埼玉県の獨協大学にも通っています。専門はドイツ古典哲学とその現代の受容で、博士論文ではヘーゲルの『精神現象学』に取り組み、ポストドク研究課題では、シュライ

アマハーの宗教哲学をカント受容の観点から再構成することを試みました。ここ最近では、宗教哲学の研究成果を発展させる形で、レッシング以来の歴史哲学を戦争と平和の観点から深める作業に興味をもつて取り組んでいます。

日本に帰国してからいくつかの大学で非常勤講師として勤務する中で、幸い上司や職場の皆さまには大変よくしていただいています。ただこれは私の努力や私の生来の人間性によってそうなったのではもちろんなく、単に運がよかっただけだと思います。こうした運という偶然性に身を任せてしまわずに、困ったときや不当な扱いを受けたと思ったときに相談できる職員組合の存在は、とりわけ心細い思いをしている多くの非常勤講師にとってたいへん心強いものだと思います。周りで困っている人がいたらぜひ組合をお勧めしたいと思うと同時に、いづか何らかのかたちで自分も組合の力になることができたらしめしく思います。

◆籠碧◆

す。一年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年度着任しました、独文専修の籠と申します。差別論の観点から文学を研究しています。専任ポストを得るまでに一生治らない類のうつ病を発症しました。易疲労性のため端的に言ってあまり仕事ができず、「本当にこんな人間が京大にいてもいいのか!」と「こんな人間が京大にいてもいいのか!」を日々往復しています。

ハラスメントを疑われる行為が発症のきっかけだったので、どうして「ハラスター」は——いくら多忙とはいえ——傍から見るとあからさまに恥ずかしいことを平気でできるのかと、それを考えるのが歯磨きや自炊に並ぶルーティンです(アカデミアと暴力団組織の構造的な近さばかり発見してしまうのですが、別物だと信じたいのです)。「ハラスター」はアカデミアの競争主義に巻き込まれている自分を俯瞰できな

いから、というのが今の飯説なのですが……。

そんなミクロな視点から、競争主義をキーワードにマクロな視点、つまり日本の大学のあり方に接続する回路が少しだけ見えてきました。国際卓越研究大学制度は協力すべき他の国立大学を抑えつける競争主義の極地ですし、任期付教員の制度は、不安定な立場の研究者を排除を前提とする選別で否応なく巻き込むシステムです。そこに心理的安全性はありません。

◆箱田恵子◆

はじめまして。東洋史学専修の箱田恵子と申します。近代中国の外交史を研究しております。私は、最初の就職先だった仙台の大学でも組合に加入しておりました。その大学は規模の小さい単科大学で、もともと教員同士だけでなく教員と職員の間関係も近い職場でしたが、慣れない土地で就職したばかりで私にとつ

て、とても心強かったのが組合の存在でした。組合での活動を通じ、様々な分野の同僚とより親しく関わることで、また大学が直面している諸問題についても学ぶことができました。

京大のような大規模校で働くのは初めてで、まだいろいろと慣れておらず、組合活動にほとんど関わることでできておりませんが、今後、どうぞよろしくお願い申し上げます。

◆林和樹◆

非常勤職員（教務補佐員）の林です。いまは文学部先輩相談室にて週1回、学部生や大学院生の方から進路、学習、研究の相談を広く受けています。前年度は日本史学専修の教務補佐員と合わせ



2025年6月に支部委員の半数改選と支部総会が予定されています。

て週3日ほど文学部にて勤務したことから、組合に加入しました。補佐員歴はすでに4年目です。非常勤という不安定な立場のため、職組は何か困ったときの相談先と思っています。

専門は日本史学、とくに明治時代の交通の歴史を研究しています。最近では鉄道会社の設立ブームを対象に、混沌とした（？）初期的な株式会社のあり方を通して日本経済の歴史を考えています。もとは鉄道が好きでこのテーマに着手しましたが、もっぱら株式の研究者として自らを売り出す日々です。餃子のタレには酢と胡椒を多めに入れるのがマイ・ブームです。よろしくをお願いします。

◆林拓也◆

西洋哲学史専修の林と申します。2024年10月に着任いたしました。それ以前はフランスにて、ポスドク兼非常勤講師として活動しておりました。

専門は17世紀から18世紀にかけての哲学と神学で、これまで主にライプニッツというドイツの哲学者の思想を研究してきました。近年は、とくにプロテスタント・スコラ学の伝統や、物理神学と呼ばれるイギリスを中心とした思想潮流に注目し、近世哲学史の展開を新たな視点から捉え直すことを目指しています。

大学をめぐる改革が進むなか、組合の役割はますます重要になっていくと感じ、加入させていただきました。文学部の存在意義が問われることもある昨今ですが、日本社会に対する貢献のあり方は様々だと思っています。私は、文学部の各学問領域における地道な研究を通じてこそ可能となる国際社会とのつながりが、数多く存在すると確信しています。現状で

は、組合活動にほとんど参加できておらず恐縮ですが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

◆三宅正浩◆

日本史学の三宅正浩です。近世史が専門で、特に織豊政権から徳川政権前期にかけての大名について研究しています。私の問題関心は、「為政者は何を考えて政治を行っていたのだろうか？」という疑問から出発しています。過去の人物の意識を探るため、日々、古文書を読み解きながら、感性を磨いているつもりです。

さて、本学への着任時、落ち着いたら組合に加入しようと思いつきながら、過ぎ、新型コロナが蔓延し、すっかり忘れ去っておりまして。昨年、ふと、「そういえば、まだ加入していないような」と思い出して加入にいったという、いい加減な人物です。あまり皆様のお役には立てないと思いますが、どうぞよろしく申し上げます。

支部委員 自己紹介

◆伊原木大祐◆



宗教学専修に所属しており、現代大陸哲学と宗教思想との関わりを主な研究テーマとしています。組合員の皆様には日頃から組合活動にご協力・ご支援いただき、とても感謝しています。私の支部長としての任期はあとわずかなとなりますが、任期終了後も（迷惑でなければ）何らかの形でサポートしていきたいと思っています。今後とも末永くお付き合いください。

◆岩本佳子◆



1967年生まれ、大阪在住です。受験で訪れた大阪に惚れ込んで、いつの間にか本籍もうつし、家も買って、永住することになりました。最初に就職したのが龍谷大学社会学部で、滋賀県の瀬田まで11年通い、そのあと立命館大学先

◆岸政彦◆



西南アジア史学専修。中東の歴史、特に以前は「オスマン・トルコ」と呼ばれていたオスマン朝の中で生きた遊牧民について研究しています。組合活動は、専修や系の垣根を越えて様々な人と知り合いになる良い機会でもあります。ぜひ、加入ください。

1967年生まれ、大阪在住です。受験で訪れた大阪に惚れ込んで、いつの間にか本籍もうつし、家も買って、永住することになりました。最初に就職したのが龍谷大学社会学部で、滋賀県の瀬田まで11年通い、そのあと立命館大学先

端研に移って6年、そのあと2023年に京都大学に着任しました。気がつけば定年退職までずっと京都・滋賀に通うことになりました。

専門は社会学で、特に、個人の人生の語りである「生活史」の聞き取りを通じて、戦後沖縄社会の構造と変容について調査しています。最近では沖縄研究よりも生活史についての本を書くことが増えました。聞き手を一般公募して、大規模な生活史モノグラフをまとめる、という仕事を、ここ数年はしています。『東京の生活史』

（聞き手150人、『沖縄の生活史』（100人、100人）、『大阪の生活史』（150人、150人）という分厚い本を出して、いまは『北海道の生活史』プロジェクト（150人、150人）に取り組んでいます。

私はずっとフリーライダーで、大学の組織の仕事はこれまでほとんど

2025年6月の支部員半数改選で、伊原木・杉江・谷川は交代になります。

地理学専修。バングラデシュの農村や難民キャンプ、陸前高田をフィールドとして、開発や難民支援、復興が持つ問題等について研究しています。組合に入っていないければ、日々の仕事に追われて大学の様々な問題について知る由もなかったと思います。親身になってくださる方が多い文学部支部の一員になってよかったです。



◆杉江あい◆

◆谷川穰◆
日本史学専修。近代日本の歴史、とくに明治時代を中心とした社会の諸相を研究しています。支部の委員となるのは3回目です。支部アンケートに寄せられる自由回答欄の記述に、皆さんの切実な思いと同時に心強さも感じています。



◆谷川穰◆

◆丸山里美◆



社会学専修。貧困とジェンダーについて、質的調査にもとづいて研究しています。支部委員は2回目とはいえ、まだあまり組合活動に貢献できていません。ですが、活動を通して、学内のさまざまな立場の方と、交流を深められればと願っています。

支部組合員一覧

- ◆安里和晃(国際連携文化越境専攻)
- ◆伊勢田哲治(科学哲学史専修)
- ◆伊藤淳史(文化遺産学・人文知連携センター)
- ◆伊藤憲二(科学哲学科学史専修)
- ◆上原麻有子(日本哲学史専修)
- ◆大河内泰樹(西洋哲学史専修)
- ◆河島思朗(西洋古典学専修)
- ◆川島隆(ドイツ語学ドイツ文学専修)
- ◆マイケル・キャンベル(倫理学専修)
- ◆児玉聡(倫理学専修)
- ◆米家泰作(地理学専修)
- ◆小山哲(西洋史学専修)
- ◆笹川尚紀(文化遺産学・人文知連携センター)
- ◆定延利之(言語学専修)
- ◆杉村靖彦(宗教学専修)
- ◆杉山卓史(美学美術史学専修)
- ◆竹下哲史(西洋古典学専修)
- ◆千田俊太郎(言語学専修)
- ◆千葉豊(文化遺産学・人文知連携センター)
- ◆津田謙治(キリスト教史学専修)
- ◆出口康夫(哲学専修)
- ◆永盛克也(フランス語フランス文学専修)
- ◆成田健太郎(中国語学中国文学専修)
- ◆ステファン・ハイム(社会学専修)
- ◆早瀬篤(西洋哲学史専修)
- ◆藤井崇(西洋史学専修)
- ◆松井直人(日本史学専修)
- ◆松永伸司(メディア文化学専修)
- ◆村瀬有司(イタリア語学イタリア文学専修)
- ◆吉井秀夫(考古学専修)
- ◆ミツヨ・ワダルマルシアーノ(国際連携文化越境専攻)

●本号への寄稿者を除きます。諸事情により、文学研究科の常勤教員に限定して掲載しております。

文学部支部では、年に一回の支部総会、月に一回の支部懇談会のほか、新入教職員歓迎会、退職者・異動者送別会、組合員親睦会、博物館見学会などのレクリエーションもおこなっています。例年10～11月頃に実施するアンケートでは、教職員の雇用条件や作業の負担状況、大学のさまざまな問題に関する意見を収集し、研究科長・事務長との懇談会を通じて大学本部に皆様の声を届けるように努めています。支部の機関誌『けやき』では、これらの活動を学内外に発信しています。

忙しくてあまり活動には参加できない…という方もいらっしゃると思いますが、組合員になっていただだけでも、これらの活動の支えになります。皆様のご加入をお待ちしております！

ご加入はこちらから

